

第10回内子町議会議員研修会

7月22日、内子町議会議員18人が出席し、「第10回内子町議会議員研修会」を開きました。
はじめに愛媛県主催による「愛媛県がん対策推進員養成研修会」にて、八幡浜保健所長の講習を受けた後、「内子町行政改革(第2期計画)」について研修を行いました。

愛媛県がん対策推進員養成研修会

総務常任委員長 下野 安彦

今年2月の県議会定例議会において、超党派で組織された愛媛県議会がん対策推進議員連盟(岡田志明会長)が議員提案した「愛媛県がん対策推進条例」が、全会一致で可決され、制定されました。同条例の制定は全国で7番目です。

今回の研修会には県議会から岡田会長(自民党)、玉井敏久県議事務局長(民主党)、佐々木泉県議理事(共産党)、木村誉県議

理事(公明党・新政クラブ)にも参加いただき、これまでの取り組みと今後の活動方針を伺いました。

《22年度の主な事業目標》

- 患者・家族サロン設置に向けた県内20市町議会議員との懇談会
- 各市町議会議員連盟の設立
- がん対策推進員養成講習

なお、この研修会が県下で最初に開催された懇談会だったようです。

続いて武方誠二八幡浜保健所長から「がん対策推進員養成講

習」を受けました。養成講習といても難しいものではなく、まずは「がんを知って行動しよう」ということでした。講習を受けて「がん対策推進員」となり、がんについて話し、早期発見のために定期的に検診を受けるよう、自分も率先して受診し、周りの人にも呼びかけることなどが役目ということでした。
八幡浜保健所管内(八幡浜市・大洲市・西予市・内子町・伊方町)および県下のがん予防検診受診率では、内子町は真ん中あたりでした。どれも高い受診率だったのは西予市ですが、その西予市でさえ最高値は肺がん検診の41.7%で、今後の課題はいかに受診率を増やしていくかということでした。
また、がんを防ぐ生活習慣を心掛けることも大切であるとのことでした。

《がんを防ぐ生活習慣》

- 喫煙⇨タバコは吸わない、人の煙は避ける
- 飲酒⇨節度ある飲酒を
- 食事⇨偏らずバランス良く
- 運動⇨日常生活を活動的に

療を受けながら入院を繰り返していますが、がんになる前とほぼ同じ食事ができるようになり、退院中は農作業で汗を流しています。

がんの大きな原因は、強いストレスからくる免疫力の低下ともいわれています。「がん⇨死」と決めつけず、自分で良いと思うことを、あきらめず積極的に取り組む気力が大切ではないでしょうか。そのためにも、本人や家族を精神的に支え合う支援体制の充実を、この内子町から発信していきたいと思えます。

内子町行政改革の成果と第2期計画

総務常任委員 山崎 正史

第1期行政改革(17～21年度)は、「事務・事業の見直し」「民間委託の推進」「定員管理と給与の適正化」「外部団体の見直し」「地域自治システムの確立」の5本の柱を中心とし、行財政の効率化に主眼を置いた改革でした。その成果は、おおむね計画どおりでした。(詳細は「広報うちこ5月1日号」を参照)

しかし、いくつかの問題点もあります。その問題解消に向けての改革が第2期行政改革(22～26年度)であると思っています。

第1点は、町営バスの在り方です。高齢者など交通弱者への交通体系の充実を、どう図っていくかという課題については第1期計画時から取り組みが行われています。シルバー人材センターに運行が一部委託されていますが、町民の足としての利便性と財政効率の観点から検証しても、十分な課題解決には至っ

ていません。今後は、デマンドバス方式への転換など先進事例を研究しながら、内子町にふさわしい交通システムの構築が必要であると考えます。

第2点は、土地開発公社の問題です。同公社と町有地財産との関係ですが、公社所有の土地を町管理の財産に切り替えるだけでは根本的な解決にはなりません。特に工業団地と禁団地については、どのような方法で販売を促進するのか十分に検討して取り組まなければ、5年後も現在の状況とあまり変化は見えないのではないのでしょうか。

第3点は、18年度から実施されている職員の希望降任制度の問題です。本人の能力・資質・素行の問題で降任されるのであれば仕方ありません。しかし、降任が一定の年齢で行われるとすれば、本人の労働意欲が失われるだけでなく、職員全体の労働意欲の低下につながるのではないのでしょうか。現在は退職年齢の2年前から降任制度が行われていると認識しています。一般的には、職員同士が切磋琢磨して自らの能力向上に努め、町

- 体形⇨太り過ぎない、やせ過ぎない
- 感染⇨肝炎ウイルス感染の確認を

この話が耳に痛かった議員も多かったような気がします。しかし、どんなに規則正しい生活をしても完全にがんを防ぐことはできず、生活習慣の改善とがん検診の受診という2段階構えが大切とのことでした。

がん検診のメリットとして、「早期であれば治る可能性は非常に高く、患者にかかる身体的・経済的な負担も少ない」ことが挙げられます。デメリットとしては「検診の結果、『異常なし』と判定されたとしても、『あなたの身体には100%がんはありません』ということではなく、『がんがあっても診断されない』『がんが無いのに、あるかもしれない』と診断される」などの場合があり、検査によって身体に負担がかかることもあるということでした。

私事になりますが、今春、父に食道がんが見つかりました。今も抗がん剤の投与と放射線治

の発展のために日々努力していることが本来の姿であると思います。適正な人事評価制度の下で、個人の能力や成果に見合う人事管理を進めるべきだと考えます。

第4点は、自治会の運営補助金制度の問題です。現在の制度では、「固定割」と「世帯割」によって補助金が交付されています。市街地では面積は狭くても世帯数が多いため、補助金も多くあります。一方、山間部では、面積は広いものの世帯数が少ないため、補助金も少なくなっています。今後、小規模高齢化した自治会をどう活性化していくかが急務の課題だと考えます。その他学校統廃合や町施設の耐震化など、さまざまな問題があり、第2期計画の推進のためには、一層の行政・町民・議会の努力と協議が必要です。

「町並み、村並み、山並みが美しい、持続的に発展する内子町」の実現のために一丸となって進んでいきましょう。



研修会の様子